

平和の準備こそ

評論家
故加藤周一氏

評論家の故加藤周一氏は次のように語っていました。「戦争の準備をすれば、戦争になる確率が高い。平和を望むならば、平和を準備したほうがいい。戦争の準備をしない方がいいです」(2005年11月)

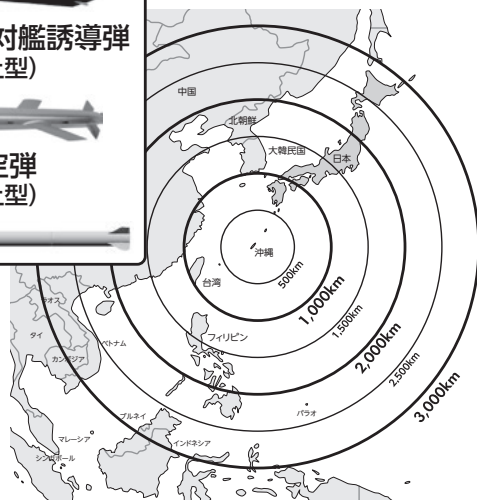
敵基地攻撃能力 恐るべき実態

極超音速兵器

敵基地攻撃のためにどんな兵器を持とうとしているのか。一番の本命は「極超音速兵器」です。自衛隊が開発しようとしているのは2種類。「超音速誘導弾」(射程3000*₀)と高速滑空弾(射程2000*₀)。どちらも迎撃が困難なマッハ5超。これで、どうして「他国に脅威を与えない」と言えるのか。



敵基地攻撃能力で
配備予定のミサイル
アジア全域を射程に



報復攻撃で 日本が廃墟に

日本への攻撃がなくても、米国が海外で戦争を始めたら、自衛隊が米軍と「融合」して敵基地を攻撃する。その結果は、相手国の報復攻撃による国土の焦土化です。

質問する志位委員長=1月31日、衆院予算委(「赤旗」提供)

衆院 志位 委員 告発 衝撃の米文書



詳細は「赤旗」



敵基地攻撃

自衛隊が米国の「統合防空ミサイル防衛」(IAMD)に参加し、敵基地攻撃能力を使って米軍と一体にたたかうことになる—共産党の志位和夫委員長は衆院予算委員会(1月31日)で、専守防衛を投げ捨て、自衛隊と米軍が融合するように一体化して海外の戦争に乗り出し、日本に報復を招く危険な実態を告発しました。

自衛隊が米軍と「融合」

先制攻撃を宣言

米国の「統合防空ミサイル防衛」(IAMD)の基本原則

- (攻勢対航空作戦の攻撃目標) ミサイル・サイト、飛行場、指揮統制機能、インフラストラクチャー
- 敵の航空機やミサイルを離陸・発射の前と後の双方において破壊、または無力化する
- 攻勢対空作戦は先制的にも対処的にもなる

米統合参謀本部作成の『対航空・ミサイル脅威』(別項)ではIAMDの基本原則は、「相手国の領域」でミサイル基地、飛行場、指揮統制機能、インフラ(鉄道、道路、港湾など)を攻撃目標に先制攻撃するとしています。

岸田首相は「アメリカが国際法違反(先制攻撃)を堂々とやることはない」と弁明。志位氏は米国がグレナダ侵略、リビア爆撃など国際法違反を重ね来たと批判しました。

日本共産党

しんぶん 赤旗

日刊
(毎日配達されます)
月3,497円

日曜版
(毎週配達されます)
月930円

お申し込みは
お近くの党事務所か
党員までお願いします

近畿民報

2023年2月 No.2(第536号)
発行/日本共産党国会議員団
近畿ブロック事務所

〒537-0025 大阪市東成区中道1-10-10ホクシンビース102号
Tel.06(6975)9111 Fax.06(6975)9115
Eメール:jcpkinki@cronos.ocn.ne.jp

※日本共産党は
以上の見解を
発表しました。